

熊谷 うちわ祭



令和七年

七月二十日(日)

二十一日(月・祝)

二十二日(火)



ご挨拶

令和七年の「熊谷うちわ祭」におきまして、大総代を仰せつかりました。

本年も変わらず、この大切な地域の伝統行事が執り行われますことを、誠に嬉しく存じます。悠久の時を超えて受け継がれてきた本大祭において、大総代という重責を担わせていただくにあたり、誠心誠意努め、職責を全うする所存です。

本年、第貳本町区の山車人形の製作者が、鑑定の結果により明らかとなりました。江戸・神田より山車を譲り受けてから130余年の歳月が流れましたが、改めてその歴史の重みと、私たちがその一端を担っていることを実感しております。

この伝統行事を次代へ継承し、熊谷の未来においても歴史と文化の礎が引き継がれていくことを心より願っております。あわせて、この誇るべき熊谷の祭りを、日本へ、そして世界へと発信していく機会として、粛々と行事の運営に努めてまいります。

祭り関係者一同、安全に配慮しながら、皆さまにご満足いただける祭りとなるよう尽力してまいります。何卒、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和七年 年番町 第貳本町区
大総代 松本邦義

関東一の祇園

熊谷うちわ祭

うちわ祭は、熊谷市の八坂神社のご祭礼です。八坂神社は、文禄年間（1592）に京都八坂神社を勧請し、現在鎌倉町にある愛宕神社に合祀されました。熊谷の夏祭りの起源を示す最初の記録は、江戸中期の寛延3年（1750）。この時から町内全体の祭りとなり、現在の形態が作られました。

また天保年間（1830）には町内各店が祭りの期間中、

買物客に赤飯をふるまったことから、「熊谷の赤飯ふるまい」として評判となり、祭りの名物となりました。

明治35年頃から、うちの配布がはじまり、時を同じくして各町が山車・屋台を購入し、神輿渡御と山車・屋台巡行による現在のうちわ祭の原型が作られました。このように「町民一体」として始まった伝統「江戸からの祭文化の継承」「自ら熱意で祭をつくり上げてきた熊谷人の心意気」が融合し、今や関東一の祇園として発展しています。

行事日程

20日
(日)

- ▶ 渡御祭…6時～
- ▶ 初叩き合い…18時半～
JR熊谷駅北口駅前広場

21日
(月・祝)

- ▶ 清祓の儀…17時半～
- ▶ 巡行祭…17時45分出発
八木橋百貨店前(鎌倉町交差点)から行宮「お宮参り」を経て筑波交差点まで
- ▶ 曳っ合せ叩き合い…20時20分頃
巡行祭からそのまま国道17号を西に進行、八木橋百貨店前(鎌倉町交差点)にて集合、実施

22日
(火)

- ▶ 行宮祭…9時～
行宮
- ▶ 曳っ合せ叩き合い・年番送り…19時～
お祭り広場
- ▶ 還御祭…24時～



行事日程

静と熱が交差する、始まりの日

初日

7/20
sun.



3日間にわたる熊谷うちわ祭は、早朝の「渡御祭」から始まります。夜が明けきらぬうちに各町区の山車・屋台が動き出し、「迎え太鼓」が響く中、祭りが厳かに幕を開けます。

初日の見どころは、大きく二つ。「渡御祭」と「初叩き合い」です。

「渡御祭」は、八坂神社から御霊をお祭り広場に設けられた行宮へと遷す神事。約6km、3時間におよぶ行列が市内を巡り、町を清めて歩きます。かつてはお祭りの中心とされていた、重要な神事のひとつです。

夜には、熊谷駅前には山車・屋台が勢ぞろいし、お囃子の響きがぶつかり合う「初叩き合い」が行われます。12台が熊谷駅をバックに一列に並ぶ光景は圧巻で、うちわ祭の「熱」を体感できる必見のシーン。駅前なのでアクセスもよく、初めての方にもおすすめです。

そして、もうひとつの密かな楽しみが「町内巡行」です。昼すぎから夕方にかけて、各町区が自分たちの地元を巡り、「疫病退散」「五穀豊穡」「商売繁盛」を祈願します。夜の賑わいとは違った、どこか穏やかな「静」のひとつ。地域の空気を感じながら、ディープにうちわ祭を楽しみたい方にぴったりです。「押し町区」を決めて、その町区を中心に3日間のお祭りを巡ってみてはいかがでしょう。

昼の美、夜の熱気。「巡行祭」と叩き合い

中日

7/21
mon.



熊谷うちわ祭、2日目のメインイベントは「巡行祭」。各町区の山車・屋台が国道17号に整列し、一斉に巡行する壮大なパレードです。例年13時からでしたが、近年の猛暑対策として夕方スタートに変更されているのでご注意ください。

各町区は、17時に八木橋百貨店前の交差点に集結。神事を経て、17時30分ごろから整列巡行が始まります。12台の山車・屋台が目の前を次々と通り過ぎる様子は圧巻。彫刻や刺繍幕など、細部まで贅を尽くした「動く芸術」を、じっくりと堪能ください。

そして、2日目の夜は特におすすめです。

この夜だけは、年番町区（祭りの主幹町）が定める公式行事から離れ、各町区の組頭を中心に、山車・屋台がより自由に動き出します。お祭り関係者の熱量が最高潮に達する時間帯です。

巡行祭を終えた山車・屋台は再び西へと向かい、20時頃には再び八木橋百貨店前の交差点に集結。その後、鎌倉町通りや星川通り、細い路地へと入り込み、辻々で「叩き合い」が繰り広げられます。熱と音と光が交錯する、うちわ祭屈指の見どころです。お見逃しなく。



子ども大人も、祭りの余韻を噛みしめるクライマックス

最終日

7/22
tue.



前夜の熱気がまだ冷めきらぬ中、最終日の昼間には再び「町内巡行」が行われます。手にマメをつくりながらも、残りわずかな時間を惜しむようにお囃子を叩く子どもたちの姿に、ぜひ声援を送ってください。

そして、3日間の熱が最高潮に達するクライマックス——それが夜に行われる「曳ひ合せ叩き合い」です。熊谷の町が一年で最も熱くなる瞬間、大人も童心にかえり、最後の叩き合いを全力で楽しみます。まさに、うちわ祭の真骨頂。圧巻の夜を、全身でご堪能ください。

叩き合いの後には、祭りの重要な行事「年番送り」が執り行われます。熊谷うちわ祭では、毎年異なる町区が「年番町」として祭り全体の運営を担っており、その大役を次の年番町へと正式に引き継ぐのがこの「年番送り」です。20時30分ごろから始まり、観客も見守る中で厳かに重責のバトンが渡されます。そしてフィナーレのあとも、祭りはまだ終わりません。深夜24時、「還御祭」が始まります。渡御祭で遷された御霊を、再び八坂神社へとお戻しする神事です。かつて「若連」と呼ばれた祇園会の方々が神輿を勇ましく担ぎ、うちわ祭の夜を締めくくります。神社に到着するのは深夜、厳かな空気に包まれた「最後の瞬間」まで、どうぞお見届けください。

無形の文化を未来につなぐ祭礼具 先人たちに思いを馳せる、熊谷の夏

interview

日本人形文化研究所 所長
林 直輝氏

年番の年(8年に一度)だけお披露目されるオリジナルの人形に大注目！



令和七年、熊谷うちわ祭の歴史が動いた。

専門家の鑑定により、第式本町区の山車人形の作者が判明。

江戸の祭り文化を今なお受け継ぐ熊谷うちわ祭の

新たな発見は、先人たちの思い、そして地域の深い絆を

もう一度私たちに伝えてくれる。

——令和七年は、熊谷うちわ祭の
第式本町区の山車人形「手力男
命」の作者が判明し、またひとつ
熊谷うちわ祭の歴史が動きました。

林直輝さん(以下、林) はい。この
人形は長らく仲秀英作と言われて
いましたが、江戸の名工の一人
日本橋の人形師・松雲齋徳山の真



作であることがわかりました。

——どのような手順で鑑定を進め
られたのでしょうか。

林 まずは現物を拝見しました。
人形のお顔や手足など組み上げる
前のパーツの一つひとつを詳細に
検分し、それぞれを間近で見させ
ていただきました。それぞれの部
品の作りには、作者の特徴が現れ
ますので、比較対象としては栃木
市にある静御前の人形などを参考
にしました。

第式本町区の山車は、明治24年
に熊谷市の中家堂の当主らが購入

ん。当時の素材や技術はすでに私たちの身近にはなく、莫大な費用がかかることは確かです。しかし、町や行政が協力し、素材や技法もなるべくオリジナルのまま残していくことが、日本の祭りの美意識を伝えていくことにもつながると思っています。江戸時代の人々がどのような意識を持って祭礼を行っていたのか、守ってきたのか。その思いを受け継ぎながら、改悪

にならないように文化財を守っていかねばなりません。

——今年も熊谷うちわ祭が行われます。林先生もご参加されたことがあると伺いました。

林 はい、熊谷うちわ祭の盛り上がりは大変なものがあります。各町区が自分たちが担うお祭りなんだ、という意識をしっかりお持ち

[写真1]

人形と山車の完成予想図と思われる掛軸。
松雲斎徳山の記銘がある(個人蔵)



——祭礼用具として、民俗文化財の価値が非常に高いことがよくわかります。

したもので、人形自体には仲秀英の銘が刻まれています。ところが20年ほど前に神田祭の山車を描いたこの掛軸(写真1)を偶然古美術商で見つけ、そこに描かれた人形と記銘を見て、松雲斎徳山の作品ではないかと疑問を持ちました。徳山は江戸時代後期の人形師であり絵師でもあった人物ですが、その来歴はまだ多くの謎に包まれています。現存し真作とわかっている静岡前の人形も、江戸から栃木市に移されたもの。比較した結果、細部の特徴がことごとく一致しており、今回の鑑定結果に至りました。

林 お祭りは日本人の文化そのものといえます。行事としては無形のもですが、そこで得られる感動や共有される思いは、先人から受け継がれ、今に至り、そして次の世代へと引き継がれます。しかし思い出やその時の共有感は今生きている人たちの中では共に感じる事ができませんが、その時を共有していた人たちがいなくなれば、消えてしまうもの。そういった意味でも私は「モノこそ重要」と考えています。お祭りで感じた感動を、時代を超えて伝えるためのモノこそが受け継がれてきた人



形や山車なのです。

——一方で、各地のお祭りではそういった文化財的価値の高いものには、老朽化による修繕費の問題やお祭り自体を担うための人手不足など、守っていくためにも大きな課題が立ちあがります。

林 特に現在の祭礼用具は、平穏な時代が続く江戸文化が花開いた江戸後期から、経済的に目覚ましい発展を遂げた明治時代に作られたものが多く、一斉に老朽化してきているのが現状です。100年以上の時を経れば修理や修復をする必要が出てきます。ただし、見た目だけをきれいにしても元の日本の工芸的価値を次の世代に遺せるか、というところではありませ

profile



日本人形文化研究所
所長 林直輝

1979(昭和54)年、静岡県富士市生まれ。目白大学人文学部地域文化学科卒業後、吉徳資料室の室長を務め、2018(平成30)年に日本人形文化研究所を設立。経済産業大臣指定伝統的工芸品産地委員などを務めるほか、「開運!なんでも鑑定団」(テレビ東京系)の日本人形鑑定士としても活躍。

——本日はありがとうございます。

ですので、他所から観に来る人もその熱意と一緒にあって感動できます。お祭りは市民全体の共有財産とも言えますし、国外の方もこの非日常の日本ならではの風景を見れば、きっと心を動かされると思います。

Q2

山車と屋台の
見どころ！

時 同じくして、絹産業などの発展により熊谷の町は大いにぎわいを見せていました。明治24年(1891年)、第弐本町区が江戸・神田の紺屋が所有していた山車を買い受けたことをきっかけに、各町が競い合って山車や屋台を製作・購入するようになります。こうして神輿渡御に山車・屋台の巡行が加わり、現在の「うちわ祭」のかたちが整い、今も受け継がれています。



熊谷 うちわ祭

熊谷うちわ祭をもっと熱く楽しみたい！
誰でも参加できる伝統行事に触れてみませんか？
3日間の盛りだくさんなみどころを
ご紹介します！

贅を尽くした彫刻や刺繍幕で飾られた山車や屋台は、まさに豪華絢爛。その中でも注目すべきは、熊谷独自の「三輪式」構造です。狭い道でも小回りがきき、素早く方向転換できるのが特徴で、うちわ祭の見せ場「叩き合い」では、その巧みな舵さばきが大きな見どころとなります。まるで歌舞伎の“見舞”を切るように、山車や屋台が勢いよく叩き合いの輪に飛び込む迫力の瞬間を、ぜひお楽しみください。



行宮を参拝するともらえるこのうちわ、純国産の「丸亀うちわ」なんです！
ここにもうちわ祭のブランドが見てとれます。

Q1

なぜ、うちわなの？

江 戸時代中期、熊谷では地域ごとに祭りが行われていましたが、やがて町全体でひとつの大きな祭りとして統一され、これが現在の「うちわ祭」の原型となりました。

天保年間(1830年代)は祭りの中興の時代といわれ、重さ200貫(975kg)にもなる神輿が新しく作られ、全町合同の「神輿渡御」が始まります。さらにこの頃、町の商店が祭り期間中に買い物客へ赤飯をふるまい、「熊谷の赤飯ふるまい」として名物となりました。

「うちわ祭」という名前の由来は、明治35年ごろ、料亭「泉州楼」の主人が祭りでうちわを配ったことに始まります。東京で修行中に見た「天王祭」に影響を受け、老舗「伊場仙」から洪うちわを取り寄せ、熊谷で配布したところ大変好評に。その後、ほかの商店でもそれぞれの屋号入りのうちわを配るようになり、「買い物はうちわ祭の日に」といわれるほど定着していきました。



誰でも参加できる！
うちわ祭

Q5

熊 谷うちわ祭のもうひとつの魅力は、誰でも参加できることです。その方法は、なんと「山車を引く」こと。山車や屋台から伸びる太い引き綱は50メートル近くにもなり、祭り関係者だけでなく、観光客や地域の方も一緒に引くことができます。

特におすすめなのが、初日の昼間に行われる「町内巡行」。各町区が地元をくまなく回り、夜の熱気とは対照的に、どこか落ち着いた「静」の雰囲気を楽しめます。巡行中は祭り関係者と話ができたり、休憩中に

う ちわ祭を初めて目にする人が驚くのは、なんといってもその「音」ではないでしょうか。直径30～45cmにもなる「擦り鉦（すりかね）」が響かせる音は、遠く離れていても山車が近づいてくるのがわかるほどの大音量です。

そして山車や屋台が辻々で出会うとくると向かい合って始まるのが、「叩き合い」。お囃子のリズムや叩き方がガラリと変わるのも見どころのひとつです。他の町区のお囃子に釣られてリズムが崩れると「負け」と言われることもあります。長年培われた自分たちのリズムは簡単には崩れません。今ではある程度の時間

飲み物やアイスの差し入れをもらえることも。

まずは町内巡行に参加して、お気に入り町区——“推し町”を見つけるのも楽しい過ごし方。そこを中心に、3日間のお祭りを巡ってみてはいかがでしょうか。

なお、夜の巡行中に短くて細い引き綱が出ているときは、「叩き合い」が始まる合図です。その際は山車を引くことはできませんので、安全な場所から迫力の競演をご覧ください。

Q4 門外不出!?
爆音お囃子



で区切って「お開き」にするのが通例です。

お囃子は町区ごとに少しずつ違いがあり、パチさばきや掛け声、リズムにも個性があります。じっくり聞き比べるのも楽しみ方のひとつですが、叩き合いの最中に聴き分けるのは至難の業。ひとつの町区をじっと見つめていると、ふと、自分の耳にだけ届くような瞬間があるかも。『チャンチキチ チキチ チキチキチ』その音が、熊谷の夏を告げます。



熊 谷の人々にとって、「うちわ祭」は一年の中心にある特別な存在です。その熱意は、街のあちこちに表れています。たとえば、山車や屋台がスムーズに通れるように、お祭り広場周辺の信号機は跳ね上がる構造になっており、中央分離帯もくるとひっくり返すとフラットになる特別仕様。年に一度の祭りのために、街のインフラまでが祭り仕様に設計されているのです。

町中がお祭り仕様

Q3



道路もお祭り仕様に！



本石区



仲町区



伊勢町区



彌生町区



筑波区



第壹本町区

あなたの推しは
どこの町区!?

熊谷うちわ祭の原型とされる祭事は室町時代から続いてきたものです。現在の山車、屋台は、明治24年、第式本町区の菓子店、中家堂の初代が、神田にあった山車を買収したことが始まりです。のちに第壹本町区、筑波区、鎌倉区、仲町区も相次いで山車、屋台を製作しました。

豪華絢爛な様式に圧倒!

熊谷うちわ祭 山車・屋台



石原区



櫻町区



鎌倉区



荒川区

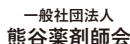


銀座区



第式本町区





Access

■電車利用の場合

- 東京駅から上越新幹線で40分／新宿駅から湘南新宿ラインで70分／東京駅から上野東京ラインで80分
- 高崎駅から上越新幹線で19分 ●秩父駅から秩父鉄道で52分
- 羽生駅から秩父鉄道で20分

※祭期間中は混雑が予想されます。公共交通機関をご利用ください。
※交通規制については別紙のマップをご確認ください。

Information

熊谷うちわ祭 公式ガイド2025
TEL:090-8685-4233
詳細はHPをご覧ください。



熊谷グルメ

熊谷うちわ祭期間中に
営業しているお店をご紹介します！

